

## 黒川流域総合調査にあたって

福田 保

### An outline on the survey of Kurokawa River and its watershed, Toyama-shi, Toyama Prefecture, central Japan

Tamotsu Fukuda

富山県生物学会では県内の生物相を明らかにすると共に会員相互の連携と研鑽を促すことを目的として、2006年(平成18年)より共同で自然環境総合調査を実施し、平成25年度で開始して8年目を迎えた。調査地は県内を東部の新川・富山、西部の高岡・砺波のおおよそ4地区に分け、順に会員が調査できる範囲の比較的小規模の河川流域を中心とした地域を指定して実施している。これまでの7回は以下のとおりである。

- 第1回 2006年砺波地区 南砺市(平村)猫池
- 第2回 2007年新川地区 魚津市角川
- 第3回 2008年高岡地区 氷見市余川川
- 第4回 2009年富山地区 立山町栃津川
- 第5回 2010年砺波地区 小矢部市渋江川
- 第6回 2011年新川地区 入善町舟川
- 第7回 2012年高岡地区 氷見市仏生寺川

本年度は県東部の富山地区の河川で、4年前の第4回でも実施した富山市内とした。富山市南部を流れる熊野川(富山県を代表する一級河川神通川の支流)左岸の支流である黒川を選定した。

黒川は、桧峠(ひのきとうげ、標高528m)の尾根を源に山間地から丘陵地へ約12.5km北流し、富山市東福沢で熊野川に合流する。源から9km下った日尾地区で右岸から榎ヶ原川(くるみかはらかわ、二子山東部を源とすると流長約6.5km)、さらに2km下った東福沢地区で左岸から小佐波川(おざなみかわ、流長約6.0km)を合わせている。榎ヶ原川は、かつてクルミの大木が茂っていたことに由来している。上流の谷間には江戸期から砂見や小谷という地区があり、田畑や山林で生活していたが、交通の便が悪く現在は過疎状態となっている。砂見と小谷の合流地点西側の榎木(かしき)地区には、地形を上手に使った大変防御に強い榎

ノ木城が16世紀頃よりあったと言われている。この辺りは越中と飛騨の境界地区でもあり軍事防衛的にも重要視されていたのであろう。一方、小佐波川上流の火土呂・道村・東俣・西俣を含む小佐波地区も平坦部が少なく、大正時代には大沢野舟峠地区と経済的効果をねらい道路が作られたが大きな効果は無く、集落も過疎化が進んでいる。

黒川本流の桧峠への道は、林業の材木、炭、石炭の運搬路であった。桧峠を越えると江戸期から昭和初期まで栄えた長棟鉾山(ながとこうざん)があり、鉛や亜鉛などの鉾石の搬出路でもあり、飛騨地方に通じる重要な道であった。かつて、この地区は梅雨や台風の時は出水がひどく家屋が浸水、流失され、黒川ダムの建設が計画されたが、水利用需給の減少で2002年(平成14年)に計画中止が決定した。黒川の川沿いの集落の過疎化が著しく廃村となった集落もあり寂しく思う。そんな中で、小坂地区に地元の方が経営する食事処「山菜のくろ川」が山菜ときこの料理を提供してくれるのは嬉しい限りである。

今回の調査項目は植物・森林群落、底生無脊椎動物、魚類、両生・爬虫類、哺乳類などである。合同調査日は2013年6月30日と9月21日としたが、調査日の追加や調査地点・方法はそれぞれの調査グループに任せた。

今回の調査にご協力いただいた地元の皆様に厚くお礼申し上げます。

(富山県生物学会副会長・企画幹事長)

#### 引用文献

高瀬重雄. 1994. 富山県の地名, 日本歴史地名大系第16巻, 平凡社, 東京.

黒川流域の風景（富山市大山地域）



桧峠（黒川上流）



大清水（黒川上流）



西俣（小佐波川上流）



小谷（棚ヶ原川上流）



牧野橋（黒川）



小坂（黒川上流）